

onboardで報告業務を省力化

ヘルパー事務の労力軽減に

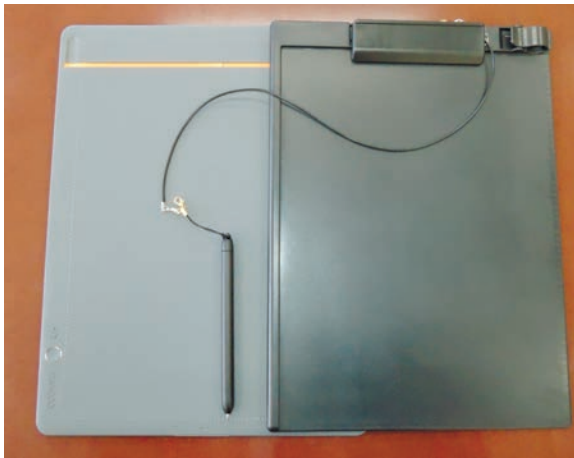
酪農とちぎ 昨年7月より運用中



ボードに紙の帳票をおいて専用ペンで書くだけ。書き味もボールペンと変わらない

酪農とちぎ農協では昨年7月より、手書き帳票をそのままデータ化する「onboard」（オンボード、開発元㈱ALCONTA、販売元㈱電巧社）を導入・運用している。酪農ヘルパー事務の労力軽減を目的としたもので、導入により負担となっていた月初めの事務作業も大幅に短縮するなど省力化に繋がった。ヘルパー側にとっても、システム活用により報告書を毎月まとめて提出しなければならぬ手間を省略できるなど利点は大きい。

同組合では毎月、酪農ヘルパーの出勤報告書を400〜500枚、月初めに複数の職員がシステムに手入力していた。一方、その労力負担、手入力に伴う入力ミスなどが課題となっていた。省力化に向け、検討当初はタブレットを活用したシステムの導入も一時候補が上がったものの、コスト面の高さから見送った。その後、従来通り紙の報告書をそのまま手で書き使用できるためヘルパー側の負担も軽く、



入力には㈱ワコムのパンプースレートを使用。ボード本体は2万円ほど

導入により、月初めに1カ月分の報告書をまとめて処理していた頃と比べ、事務局とヘルパー双方の省力化に繋がった。「1カ月後ではなく日々確認できるため、トラブルやミスの防止にもつながる」と業務を担当している指導企画課の齋藤克彦課長は話す。今後は他業務で毎日行っている事務作業への活用も模索中。

専任ヘルパーと出勤回数が多い臨時ヘルパー計15名にボードを組合から提供している。

紙帳票「そのまま」使える

導入の負担低い 使い方も簡単



いま使っている紙帳票は「そのまま」に、書かれた文字情報をスキャンもAIも使わずにPDFやエクセル等のデータに変換できるonboard。使い方も簡単で負担も少なく、コストも低く抑えられているため、現場でも導入しやすい。先進技術を現場に導入する際は従来の仕事の流れ、やり方に影響を与えないこと、誰が利用しても簡単に扱えること等が課題となる。その点、onboardは現場で使っている帳票をそのまま利用できる。ボードは基本的にA4サイズ（またはそれ以下）が対象で、ボード自体にはA4で約100枚分のデータを保存できる。データ送信はボードからスマホ、その後PCという流れ。スマホで送るため、地域の電波状況が悪くても問題ない。また、ボード自体の保存機能によりデータと紙の両方が残るため、災害や家畜伝染病発生時など有事の際における有効性も高い。

製品の基礎となる、紙に書いた文字をデータ化するアプリは㈱ALCONTAの根津代表取締役、酪農とちぎの齋藤課長、(株)電巧社の山田氏

ま利用可能で、ボード上に置いて専用ペンで書いて送信ボタンを押すだけで操作も簡単。書き味もボールペンと変わらない。持ち帰ってスキャンする必要もないため効率的で、汚れなど紙の状態も問わない点も利点。

「酪農家さんや組合においても厳しい環境の中、長く経営を続けていく為に、無理のないIT投資や、既存の作業工程を出るだけ変えずに上手くシステムを活用することで省力化を図れるのではないかと。酪農業務効率化の一助になれば」と話した。様々なシーンで活用が期待できるonboardの問い合わせは同社ウェブサイトで。

NTAが開発し、ボードは電子機器等の製造・開発を行う㈱ワコムが「Bambooslate」を使用。(株)電巧社が販売一次代理店を担うなど複数社が協力してサービスを提供している。onboardのシステムのうち、ボード本体は2万円ほど。その他用額のアプリ使用料、初期設定費などかかるが、タブレットの導入など他のIT・IoT技術の利用と比べるとコストはかなり低く抑えられている。酪農現場への導入について、(株)ALCONTAの根津直文代表取締役は「酪農家さんや組合においても厳しい環境の中、長く経営を続けていく為に、無理のないIT投資や、既存の作業工程を出るだけ変えずに上手くシステムを活用することで省力化を図れるのではないかと。酪農業務効率化の一助になれば」と話した。様々なシーンで活用が期待できるonboardの問い合わせは同社ウェブサイトで。